



# 日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

JANUARY 2018

会報誌 | vol. 52 no. 1

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

## New Year Message

Mark Gresham

A few weeks ago, Thomas L. Friedman had a thought-provoking column in the New York Times which addressed “climate change” in terms not only of the weather but in terms of how we think about and shape policy. The part that struck me in particular was his take on the “climate” of technology and work. He suggested that there are six elements of crucial importance in the interplay between technology and work: analysis, optimization, prophecy, customization, digitization and automation. His premise is that technology vastly improves our business pursuits by “revealing previously hidden patterns” (analysis), the paths to efficiency (optimization), predicting what our customers want (prophecy), and tailoring our products and services to meet the needs of our customers (customization), all in the context of digitization and automation.

His argument continues: all of these require the ability to adapt, both at the individual and community (corporate) levels. Although there have been some major innovations in the way books are sold in Japan, a visit to Frankfurt (or London in the Spring) reminds me that there’s still an awful lot of catching up to do. Amazon has been in this market now for 20 years . . . and people still complain of it interfering with (at best) or destroying (at worst) their business. Digital publications still do not enjoy the widespread popularity in Japan that they do in other markets and much of this is still dependent on readers’ (and institutional) choices. Yet, there is no question that the market for print books is significantly smaller than it was 10 or 20 years ago. There are certainly demographic issues at play here and these affect not just the market for foreign books but Japanese publications as well. And all indications are that the population will continue to age and decline overall.

What steps are being taken to address these? How are resources appropriated? Is it really not possible, for example, for us (with the cooperation of our publisher-partners) to lead the way in convincing teachers at all levels of education that physical samples are a waste of



money, both in the distribution of thousands (really) of printed copies of textbooks as well as in the labor-intensive distribution process itself? Received wisdom says that institutional customers in Japan still want paper publicity

but what if it were universally no longer available? Wouldn’t we see libraries and professors relying on digital advertising instead? How long will it continue to be economically viable to ship thousands of physical books from overseas to Japan when the technology exists to print each copy locally as it is needed? And are publishers willing to assist in this paradigm shift? If shipping charges, customs clearance fees, inland delivery charges, and warehousing storage fees were significantly reduced wouldn’t it then be possible to reduce the price of the books themselves and thus create competition for and with the Amazons of this world? I know I’m really prioritizing only four of Friedman’s six elements – analysis, optimization, digitization and automation – but isn’t it possible to use these to nudge customer expectations (prophecy and customization) in a slightly different direction so that they overlap with our own abilities to meet them? Friedman was talking about much larger issues than selling books, I know. Yet, somehow, I think his ideas are applicable to the business we’re in and that it’s crucial to seek more innovative ways to do what we do so that collectively we can not just survive but thrive in this “climate change.”

## 神保町ブックフェスティバル

事業委員会：委員長 石谷 清（丸善雄松堂）

このたび奥村さん（センゲージ）に替わり、事業委員長になりました。よろしくお願ひいたします。

早速「さて今年のTIBFは…」と思っていたところ、何と中止（その後来年の中止まで）が決定という予想外の事態。代わりに参加可能なイベントを探していたところ、仲理事からの助言もあり、神保町ブックフェスティバルに参加することになりました。

実はJAIPとして神保町ブックフェスティバルへの参加は初めてではなく、2005年以来ということになります。その際は初日の後半に雨に見舞われ、早仕舞いだったようです（会報通巻462号参照）。昨年までは2日間の開催ということで、屋外イベントのため天気次第というバクチ的要素がありました。今年からは3日間になったこともあり、若干安心感が増しました。

新文化の記事によると、

「今回、参加した出版社は142社で、188台のワゴンで汚損本や旧版などを割引販売した。商店街にある飲食店関係のワゴンを含めると240台で、過去最多の出展数を記録した。先月、日本書籍出版協会が来年の「東京国際ブックフェア」を休止すると発表したことで洋書バーゲンのワゴン10台と、版元ドットコムワゴンの8台が急遽、出展することになったことが影響。そのほか初出展する出版社も多く、活況を呈した。来場者はとくに初日が多かった。本部によると、「来場者は初日だけで5万人以上」とみている」とのことでした（2017年11月9日付\_第2面）。

前の晩からの雨が心配されましたが、初日朝には雨もあがり、搬入がスタートしました。我々のワゴンの前には朝から長蛇の列が。早川書房の著者サイン本を買うための列でした。並んでいるみなさんがスマホでなく、本を読みながら黙々と並んでいることにさすが神保町だなと感じました。

協会から参加したのは、クロニクル・三善・絵本の家・フランス図書・センゲージ・丸善雄松堂の6社でした（ワゴン台数順）。

TIBFの時には、開門と同時に我々のコーナーに猛ダッシュでやってきて、段ボールをカート代わりに

商品を投げ込み（それも同じ商品を複数購入）し、領収書を要求するという、業者のまとめ買いが目につきましたが、神保町ではほとんど見られず、明らかに個人のお客さまが中心だったと思います。また、TIBFと異なり対面販売方式だったため、各社ワゴンでユーザーと商品について語る場面も多く見られ、違った楽しさもあったと思います。

結果は3日間・全社（6社・10台）計で約150万円、この結果にはいろいろな評価があると思いますが、根気よく続けて出ること、実績を積み上げていければと考えます。一方、影響は軽微だったものの降雨はゼロではなく、これにも参加し続けながら、もう一つ確実にやれる（＝雨の心配がない屋内）催事も見つけなければならぬと痛感しました。

出展社の皆さん、搬入出をやっていただいたワタナベ流通の方々、本当にお疲れさまでした。



## 季節先どり(!)

# 御岳溪谷ラフティングツアー& イタリアンBBQ

Taylor & Francis Groupの平林と申します。カヌースラローム歴5年のリバースポーツ愛好家です。

このたび、ホームゲレンデである御岳溪谷を流れる多摩川の上流にて、洋書協会の皆様とシーズンを先どりし、リバーラフティングとイタリアンBBQを楽しみました。あいにくの雨模様もお構いなく、軽快に続く瀬のあちらこちらで歓声をあげながら水遊びに興じました。

清流を誇る御岳溪谷は、都心から最も近い溪流釣りの名所として知られています。同時にカヌーのメッカとして、毎週末多くの愛好家が関東近辺から集まります。

オリンピック種目の「カヌースラローム」や、水上のロデオといわれる「カヌーフリースタイル」、最近ではリバーSUP(Stand Up Paddle Board)や、ハイドロスピード(リバーボード)など、老若男女を問わず、みな思い思いに川の流れと戯れています。

なかでも今回体験したリバーラフティングは、ゴム製の「筏」(raft)を仲間と一緒に漕いで川を下るチームスポーツです。修学旅行で参加される学生さんや、体験型チームビルディング研修として社内研修に取り入れる企業もあります。川を知り尽くした、ライフセーバーの資格を有するガイドが同乗しますので、泳ぎに自信がない方でも楽しむことができます。

ちなみに、今回ガイドをしてくださった金谷徹選手は、東京オリンピック出場を目指す現役のカヌースラロームトップ選手です。春夏のシーズン中は、国際レースが開催されるヨーロッパ各地で活動されていますが、秋冬のオフシーズンには、私達のような一般のスラローマーと同じく、御岳でトレーニングを積んでいます。

隣駅の沢井には日本酒「澤乃井」で有名な小澤酒造がありますので、ラフティングを楽しんだ後は酒蔵

見学や利き酒を楽しむのもいいかもしれません。

新緑、初夏や盛夏の頃、洋書協会から同イベント再度開催の折は、ラフティングでチームプレーに挑戦してみませんか？

以下、参加者の声とあわせて、ツアー中とイタリアンBBQの写真をご覧ください。

洋書協会の皆様、川を熟知したガイドの方とワイワイ、初めてのラフティングを楽しませていただきました。川の流れに乗ってボートを漕ぐのはとても爽快です。運動の後のビールとイタリアンBBQのおいしいこと。自然の中で一日遊んでリフレッシュしました。なかなか機会がないと経験できないことなので、参加させていただくことができて良かったです。(ラフティング&BBQ参加)

初体験となるラフティングにおそろおそろ参加させていただきました。恵みの雨(!?)のなか、持参したのは水着のみ。お借りした暖かいウェットスーツ、ライフジャケット、ヘルメットを装着し、いざ川へ。運動音痴の不安はガイドさんから送るユーモアにより一蹴され、川の流れに身を任せ、7キロのコースから笑顔で生還しました。大自然の中で共に(ひや)汗を流し、連帯感も生まれたのちに協会のメンバーといただいたビールは今年一番の旨い酒となりました。(ラフティング&BBQ参加)

皆さんがラフティングを楽しんでいる間、シニアの私は清流を眺め散策。偶然にも隣駅は「澤乃井蔵開き」、新酒祭りで賑わい、独特の熱気にあふれていました。小澤酒造で新酒から純米大吟醸まで10種が試飲可能でも、ここは舐める程度にして酒蔵巡りし、BBQパーティーで洋書協会チームに合流しました。自然とスポーツとグルメの一日でした。くれぐれも飲んだらラフトに乗るな!です。協会のメンバーは皆さん安全乗船でした。(BBQ参加)



外国人に  
おすすめの

# Books on Japan

第2回

チャールズ・イー・タトル出版  
花井 陽子

Abby Denson 著

『Cool Japan Guide』 『Cool Tokyo Guide』

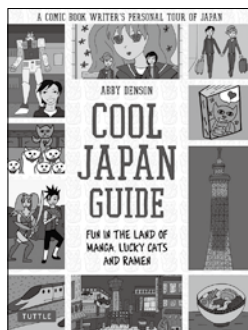
Abby Denson さんはNY在住の漫画家。幼い頃からマンガ好きだった Abby さんは自然と日本の文化に興味を持つようになり、学生の時に上智大学のサマーセッションに参加すべく日本を訪れたことをきっかけに、すっかり日本に魅了されたといえます。今回ご紹介する『Cool Japan Guide』(2015) 『Cool Tokyo Guide』(2017) は著者の Abby さん、パートナーの Matt さん、日本人のお友達で同じ漫画家の Yuuko さんを登場人物として、コミック仕立てで描かれた日本旅行ガイドブックです。Abby さんのカラフルでやや脱力系のイラストで描かれた日本の観光名所、サブカルスポット、庶民派フード、スイーツ、日本の一般的な家庭風景、温泉にカラオケ、空港での風景は日本に住む私たちにも驚きと喜びを提供してくれます。そして外国人にも自信を持って本書をオススメしたいと思えるのは、日本の伝統的な側面というより、私たちの日常に根差した生活風景がポップに楽しく紹介されているからです。日本をこよなく愛す Abby さんは日本の珍風景を描くだけでなく、初めて外国人を訪れた方たちにも優しく手を差し伸べてくれます。例えば電車でのマナー、日本人のマスクの着用風景、ゴミの捨て方、試着室のフェイスカバーの使用方法、タクシーがあっても入れる温泉情報、神社での参拝方法、簡単な日本語会話、そして日本旅行に役立つアプリや web サイトなど。通常のガイドブックに掲載されている情報でも、それが「マンガ」で表現されていることにより、情景がよりリアルに立ち上がり、読みながら私たちも体験しているような気分で見ることが出来ます。これから日本を訪れるという外国人の方には是非読んでもらいたい一冊であり、かつ外国人の方に送るギフトにも最適な一冊であるといえます。漫画をきっかけに日本に興味を持つ外国人が増え続けている今、その一人である Abby さんからこのような作品が生まれたのは、とても喜ばしいことのように思われます。

私自身は Abby Denson さんの『Cool Japan Guide』を読んでいると、子どもの時のことを思い出してしまいます。自動販売機のボタンを押したくてたまらなかった(バスの乗降ボタンもしかり)、デパートやゲーセンにあるガチャポンを眺めてはやりたくて仕方がなかったこと、街のネオンサインの点滅をいつまでも眺めていたかったこと、お店の前などにある奇抜な色のマスコットを見れば喜んでいただけなことなど。コンビニに入っては新商品や限定品を物色したり、デパ地下では買えずとも目を輝かせて歩き回っていたことなど。今は当たり前のも事も子ども

ものときは「初めて」であり、その「初めて」に遭遇した時のワクワクや驚きは持続せず、慣れてしまうと日常の風景と化してしまい、感動も薄れてしまいます。そして Abby さんが日本を純粋な驚きと喜びを持って描き出しているのを見ると、その「初めて」の感動を再発見することになります。そして大人になった今、子どものときにやりたかったことは、やろうと思えばすぐに出来るじゃないかということに気づきます。大人になった今、それは「非常識」かもしれないけれど、それは「遊び」ということもできると思います。自動販売機で目についた物珍しい飲料を買ってみる、あるいは「あたり」が出るまでひたすら買い続ける、気になるガチャポンを10回まわしてみる。食べたい駅弁をとりあえず全部買って友達とシェアして食べてみる。キューピーちゃんのキーホルダーを集めてみる。何気ない出来事をマンガに描いてみる。そんな遊び心が呼び覚まされます。

「Kawaii」という言葉が世界共通語として浸透しつつありますが、日本にも浸透しているといってもいい「Cool」は同義語に近いニュアンスを持っているように感じます。人が何か異質なものに会ったとき、「Kawaii」と「Cool」は拒否ではなく受容の、積極的にそれを養分とできるような魔法の言葉に近いのかもしれませんが。Abby さんの日本への向き合い方は私たちが旅行をする上でも応用が可能で、その姿勢は旅先での楽しみ方のヒントが満載のように思われます。旅先のスーパーに入るのが好きだったり、お土産屋さんより地元の昔ながらの商店とかに足が赴いてしまう人はきっと Abby さんタイプの旅行者なのだと思います。

今回のコラムをきっかけに本書に興味を持たれた方は是非 Abby さんの Instagram も覗いてみてください (@abbydenson)。つい最近まで日本を訪れていた著者が切り取った、北海道から名古屋までの、今の面白い日本がたくさん切り取られていますよ。



ISBN: 9784805312797  
本体価: 1600 円



ISBN: 9784805314418  
本体価: 1600 円

# 我が社・わが街

## 第12回 中野坂上

株式会社サンメディア

松下 茂

弊社は、1964年11月に創立してから今年で53年目を迎えています。法人設立は渋谷区でしたが、まもなく新宿に拠点を移して1994年から中野区本町に自社ビルを建てて今日に至っております。

住所は中野区本町ですが、最寄駅は地下鉄丸ノ内線の中野新橋駅で、駅からは神田川にかかる「新橋」(中野新橋)を渡って3分ほどの場所にあります。

おそらくこの協会の方で、丸ノ内線に支線があることをご存知の方は少ないことと思います。弊社にお越しいただく際には、荻窪方面または新宿方面から地下鉄に乗り、中野坂上駅で方南町行きまたは中野富士見町行きの電車に乗り換えます。午前と午後一部の時間には、新宿方面から中野富士見町行きの直通電車が運行していますが、本数が少ないのでほとんどの場合は中野坂上駅で乗り換えることになります。支線を走る電車は3両編成で、90年代の半ばくらいまでは古いレトロな木造列車が走っていました。

中野新橋駅で下車して2年前に改築されたモダンな駅舎から改札を抜けると目の前がメインの通りで、中野新橋商店街となっています。古くから営んでいると思われる雑貨店など個人商店や寿司屋を見ることができます。

ただ今は名前から想起できるほどの賑やかさはありません。というのも中野新橋の環境が大きく変わってきたからです。

中野新橋周辺は、かつては花街として有名であり多くの料亭が立ち並んでいました。東京には有名な三業地(芸妓置屋、待合、料亭)がいくつもありましたが、中野新橋もその一つでした。現在でもその名残りとして大きな塀のある屋敷や小さな小料理屋さんも数件残っています。

三業地が廃止されて以降は、料亭の跡地にマンションが建設されて今では新宿に近いこともあり若い独身者に人気があるようです。弊社の社屋も昔の料亭跡地に建設されました。

中野区役所のホームページには、江戸時代には中野駅周辺が鷹狩の場所として有名であったことや綱吉の時代には、約30万坪の土地に30万頭もの犬が養育されていたと記されています。

ところで弊社の裏には貴乃花部屋がありました。昨年の夏に江戸川区の方に部屋を移されましたが、看板こそないもののまだ土俵のある相撲部屋が残っています。屋上には稽古で使ったまわしや浴衣が綺麗に干してあり、街を歩く若い相撲取りの方とすれ違うと鬢付け油の心地よい香りに触れることができました。

私は2000年に大阪から東京に転勤してきましたが、多くの関西人が抱くように東京での生活には不安がありました。しかし中野新橋には関西人も抱擁する優しさがあります。採用した若いスタッフの中にも「会社が中野新橋だから安心感があつた」との声が複数ありました。

時間があれば一度中野新橋にお立ち寄りください。散策の疲れは会社近くにある神田川沿いの「Genius(ジニアス)」という全国でも有名なジャズ喫茶で心地よい音楽とコーヒーが癒してくれます。



# 海外出張・海外見本市の視察を全力サポート！

海外出張・見本市の手配は、ジェイワールドトラベルにお任せください！  
“専任のスタッフ”が決め細やかなサービスで快適な旅をお手伝いいたします。

## — International Book Fair —

>>>> 予約受付中 <<<<

2018年3月26日(月)～3月29日(木) / イタリア・ボローニャ <ボローニャ見本市会場>

### ボローニャ国際児童書籍展 ~Bologna Children's Book Fair~

旅行期間 : 2018年3月25日(日) 出発 6日間 宿泊ホテル : Grand Hotel Elite ★★★★★  
旅行代金 : 218,000円 ~ ※見本市会場までタクシーで約15分

2018年4月10日(火)～4月12日(木) / イギリス・ロンドン <オリンピア見本市会場>

### ロンドン国際書籍展 ~The London Book Fair~

旅行期間 : 2018年4月 9日(月) 出発 5日間 宿泊ホテル : Best Western The Boltons Hotel ★★★★★  
旅行代金 : 209,000円 ~ ※見本市会場まで最寄り駅から地下鉄で1駅

2018年3月16日(金)～3月19日(月) / フランス・パリ <ポルトドベルサイユ見本市会場>

### パリ書籍展 ~Salon du Livre de Paris~

旅行期間 : 2018年3月15日(木) 出発 5日間 宿泊ホテル : Mercure Opera Garnier ★★★★★  
旅行代金 : 190,000円 ~ ※見本市会場まで最寄り駅から地下鉄1本

2018年5月30日(水)～6月1日(金) / アメリカ・ニューヨーク <ジャヴィッツセンター>

### 全米書籍展 ~BookExpo America~

旅行期間 : 2017年5月29日(火) 出発 5日間 宿泊ホテル : Row Hotel New York ★★★★★  
旅行代金 : 233,000円 ~ ※見本市会場まで最寄り駅から地下鉄で1駅

※New York Rights fairが同時期に別会場にて開催予定です。

2018年10月10日(水)～10月14日(日) / ドイツ・フランクフルト <メッセ フランクフルト>

### 【企画中】フランクフルト書籍見本市 ~Frankfurt Book Fair ~

※視察プランは現在企画中ですが、お見積りは随時受け付けておりますのでお問い合わせください。  
また、香港、北京、台湾、韓国など、世界のブックフェアも取り扱っております。

上記コース以外のホテルプランもございますので、お気軽にお問合せ下さいませ。

ジェイワールドトラベルでは、お客様のご希望やニーズに合わせて、最適なプランをご提案し、お問合せからご帰国までをサポート致します。

## お問合せ・旅行手配



JATA正会員 / 観光庁長官登録旅行業 第1359号  
**株式会社ジェイワールドトラベル**

お問合せ

Tel 03-3402-9955

〒107-0062 東京都港区南青山2-5-17 ポーラ青山ビル6F  
URL [www.jw-trvl.co.jp/](http://www.jw-trvl.co.jp/) Email [tet@jw-trvl.co.jp](mailto:tet@jw-trvl.co.jp) 担当: 藤代

日本洋書協会会報 vol.52 No.1(通算550号) 発行日2018年1月1日 編集者 遠藤 尚子

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 (株)MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523  
URL:<http://www.jaip.jp> E-mail:[office@jaip.jp](mailto:office@jaip.jp)